

シリーズ多面的機能支払 熊野・御浜・紀宝

Vol.1 平本郷溝組合（熊野市飛鳥町小阪）の軌跡

だいらほんごうみぞくみあい

「私たちの思い、そして伝える100年先へ」

——美しい里山を守り、次の世代へとつないでいく——
私たちがいつも当たり前のように過ごしている幸せな暮らしは、そんな思いを持った人々により、引き継がれてきたことを忘れてはならない。多面的機能支払交付金は、そんな思いを持った活動組織へ取組の一助となるように創設された制度である。
熊野市、御浜町、紀宝町には多面的機能支払交付金を活用し、故郷の暮らしを守る活動組織が17組織ある。それら活動組織の多様な取り組みは、100年先の地域での暮らしへとつなげるための足跡だと思う。それぞれの活動組織の地域に対する思い、今後の展望についてインタビューし、シリーズ企画として皆様にお伝えする。

熊野市飛鳥町。ここは、熊野市役所から

北へ車で約20分走るとたどり着く、大又川が流れる山々に囲まれた地域だ。

訪れたのは真夏だというのに気温は28度。心地よい風が通り抜け、初めて訪れたのに、「ただいま」と言ってしまうそうになる、どこか懐かしい気持ちになるそんな地域だ。

平本郷溝組合代表の桑原さんが笑顔で出迎えてくれた。

——組織の活動について教えてください

桑原さん平本郷溝組合は、平成27年度に設立し、現在は8名で活動しています。私は組織の立ち上げからのメンバーの一人で、この制度は、地域の景観を守るためには、とてもありがたい制度であると感じています。私たちの生まれ育った飛鳥町の美しい景観を守るための水路の維持管理や田んぼの畔の草刈りなどを、地域として続けることができている。ただ、組織のメンバーは高齢化しており、新たな若い世代の

メンバーの加入も考えていかななくてはならないと思っています。

——活動をする中で工夫していることはありますか

桑原さん飛鳥町周辺には、多面的機能支払交付金を活用している組織が数組織あります。私は、近隣地区にも田んぼを所有しているの、他地区の活動組織のメンバーにもなって活動しています。メンバー間で情報共有しながら、どんなことをしているのかなどを知ることができるので、お互いが



写真1 平本郷溝組合 代表 桑原さん

切磋琢磨することができ、取組内容のブラッシュアップにつながっています。

——これから取り組みたい新たな活動はありますか

桑原さん飛鳥町を訪れた人々に四季折々の植物を楽しんでもらおうという思いから、景観植物としてコスモスやレンゲなどを植えました。雑草に負けてしまい、なかなか綺麗に育てることができませんでした。飛鳥町は、標高300mの山間部に位置し、冬には氷点下となることもあり、朝夕の寒

暖差も大きい地域です。地域に合った植物がなかなか見つからず、困っています。今後も、飛鳥町を訪れる人が心豊かになるような、新たな取り組みをしたいと思っています。

——地域の農業についてどうお考えですか

桑原さん最近では、ドローンで田んぼの農業散布を行っています。流行りのスマート農業にも取り組んでいます。地域で暮らす人口および農業従事者が減る中でも飛鳥町の農業、景観を守るため、スマート農業のような新しい技術も導入して、若い世代にも魅力ある取り組みにもチャレンジしていきたいですね。

■取材を終えて

桑原さんのご自宅から見える真っ青な空に、緑の山々、農の営みが生み出す田の風景は、桑原さんたち平本郷溝組合の皆さんが思いを持って、守ってきたのだ。美しい故郷である飛鳥町で、農業をしたという若者が暮らす未来に向けて、これから、どのような農業農村整備が必要なのかを考えることができた。

（聞き手：三重県熊野農林事務所 山口、福永）



写真2 熊野市飛鳥町の風景



写真3 右から 熊野市役所 福田さん、小山さん、桑原さん、三重県熊野農林事務所 福永

【基本データ】
組織名…平本郷溝組合
組織設立年…平成27年
活動メンバー…8名
活動メニュー…農地維持支払
資源向上支払
(共同)

(令和4年7月取材)

